

第6学年A組 図画工作科学習指導案

授 業 者 進藤 亨
研究協力者 長瀬 達也
教材分析協力者 石井 宏一

1 題材名 コラージュで表すわたしの思い ～はさみと紙のハーモニー～ (絵)

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは6年生になり、自分が感じた春のイメージを水彩絵の具と竹串を用いてB6判の小さな画用紙に描く活動に取り組んだ。春のまだ寒い感じや暖かくなってきた感じ、春が訪れた喜びなどを色の組み合わせを考えながら点描や線描などで描いた。春の植物や風景を描いた写実的な表現、気持ちや感覚を主にした抽象的な表現など様々な春の表現が見られた。

また、自分が表したいことを10cm四方の色画用紙に貼り絵で表現する活動も行った。季節やこれまで見た風景、自分の気持ち、伝えたいことなど自分が表したいことをテーマにして、そのテーマが作品を見た人に伝わるような工夫をこらした。形を単純化したり、向きを考えたり、動きが感じられる並べ方をしたりするなどの工夫が見られた。似た色、目立つ色の組み合わせ、色の強弱などの工夫も見られた。

このような活動を通して、表したいイメージを形や色を組み合わせながら効果的に表現する資質・能力は高まってきている。しかし、自分が表したいことを思い付かなかつたり、表したいことがはっきりしないまま活動が進めている子どもも見られた。まずは、何を表すかの見通しをもつ必要がある。そして、表したいことをどのようにして表すか、どんな材料や用具を用いるかなど様々なことを選択する力をさらに高めていく必要があると考える。

(2) 題材について

本題材は、模様をついた紙や色紙を切り、その形や色の組み合わせや並べ方を考えながら、自分が表したいことを構成していく活動である。この活動を通して、**形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える力、また、表現に適した方法などを組み合わせるなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する力**を培う。本題材では、特に、形や色、構成の美しさに重点を置く。

コラージュは、構成を試行錯誤しながら表すことができる。偶然できた形や模様の中から表したいことの中心になるものを決める。それをもとにして、自分が表したいイメージを広げていく。そして、そのイメージを表すために、どのような形や模様、色の組み合わせで構成していけばよいのかを考えながら表現していく活動に適した題材である。表しながらつくりたいことを明確にしたり、さらに発想を広げたりしていくことも期待することができる。

また、多様な種類の色紙を用いることで、自分が表したいイメージに合うような色の調和や対比、強弱、変化などの効果を見付け出すこともできる題材である。

(3) 指導について

マティス作「王の悲しみ」を鑑賞し、様々な表現が何を表しているのかを見合う場を設ける。単純化された形や色に込められた意図や表現の効果などについて話し合い、自分たちが4月からつくってきた作品も表したいイメージを単純化した形や色で表現していることを意識させる。

表したいことの見通しをもつ段階では、切り取った紙の形や模様が「何に見えるのか、どんな感じがするのか」と見立てることから、表したいことの中心になるものを見付けることができるようにする。その際には、**形や色の組み合わせなどに着目し、意味付けたり、形を見立てたり単純化したりしながら、主題や主題に合った表し方を考える「見方・考え方」**を大切にしていける。どのように主題を表すかについて考えることができるように、切った色紙を並べる活動を設ける。切った色紙の中から中心になるものを見付け、そこから発想を広げて、どんな作品にしていくのかという見通しをもっていく。友達と意見を交流し合う活動も促し、自分では気付かなかった見方や感じ方にふれることができるようにし、表したいことをよりはっきりとさせていく。

表したいことを表現する段階では、似たような色の組み合わせや反対の色の組み合わせ、色の強弱、変化、形の単純化、大きさや向きから生まれる奥行きや動き、全体の構成の美しさなどを重視して、表したいイメージにより近付けることができるようにしていく。そのために、子どもとの「対話」を通して、表したいイメージを把握し、よりイメージに近づくような色の調子や形の配置について提案したり、参考になる表し方をしている子どもを紹介したりしていく。

題材を通してふり返る段階では、表したいイメージと形、色の組み合わせなどをつなげることで、どんなイメージを表したのか、そのためにどのような表し方の工夫をしたのか、次の作品づくりで使えるような考え方や表し方を視点として示し、次の活動につなげていく。

- 3 単元の目標（記号は本校の資質・能力表による）
- (1) 形の面白さ、大きさ、並べ方、色や模様の組み合わせなどを工夫して、表したいイメージに近づくように表現することができる。 (e-28・30)
 - (2) 切った紙の形や色、模様などから発想を広げ、主題を表すための効果的な表現方法を考えたり、自他の表現のよさを感じ取り、見方や感じ方を広げたりすることができる。 (d-21) (f-36)
 - (3) 形や色の組み合わせのよさや構成の美しさに関心をもち、主体的に自分の主題を表現しようとしている。 (a-3)

4 単元の構想（総時数5時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

春のイメージ（自分が感じた春を水彩絵の具で表現する）					
時間	学習活動 （・は予想される子どもの姿）	教師の主な支援	評価（本校の資質・能力との関連）		
◎ 本題材で育む主な資質・能力 ・形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える力（e-30） ・表現に適した方法などを組み合わせるなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する力（d-21）	1	(1) 「王の悲しみ」を鑑賞する。 ・色のみ合わせが目立つ。 ・並べ方を工夫している。 ・表し方が〇〇に見える。	・作品づくりの見通しをもつことができるように、単純化された形や色に込められた意図や表現の効果などについて話し合う場を設ける。	○ 「本題材の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」 ・形や色の組み合わせなどに着目し、意味付けたり、形を見立てたり単純化したりしながら、主題や主題に合った表し方を考える。	
	2	(2) はさみの使い方を工夫して、紙をいろいろな形に切る。 ・この形や色は〇〇に見える。 ・向きを変えると〇〇にも見える。	・形の見立てができるように、ギザギザな形、丸っぽい形、細長い形など、〇〇に見える表し方を提示する。		・はさみの使い方を試しながら、〇〇に見える形をつくらせてみる。 (e-28)
	3	(3) 切った紙の形や色の組み合わせを並べながら、表したいことを考える。 ・この形が魚に見えるから海の世界をつくろう。 ・この色は楽しい感じがする。楽しい気持ちを表そう。	・切った紙から受けるイメージが広がるように、見付けた形を友だちと見合っ、どのように見えるかを交流し合うよう促す。 ・切った紙を共有で使えるように、余った紙をストックしておく材料コーナーを設ける。		・切った紙から感じたことや想像したことなどから発想を広げ、表したい主題を考えている。 (d-21)
	4	(4) 表したいイメージに近づくように、形や色などの組み合わせを考えながら表す。 ・この色とこの色の組み合わせが目立つ。 ・この並べ方をすると回っている感じを表せるな。 ・何か物足りないな。海の中にあるものと言えば・・・	・表したいイメージに合う表現の参考にできるように、形の大きさ、向き、動きを、奥行きが表れる並べ方や似た色、反対色の組み合わせ、色の変化、強弱などの視点を示したり、参考作品を掲示したりする。		・表したいイメージに近づくように、形や色の組み合わせを工夫して表現している。 (d-21) (e-30)
	5	(5) お互いの作品を見合い、表し方のよさや表現の意図を感じ取ったり、自分の表現をふり返ったりする。	・自分の学びを意識することができるように、お互いの表し方を見合う場を設ける。 ・次時に自分の主題を表すことができるように、切った紙にない表し方が必要な場合は、スケッチブックに記入するように助言する。		・表現のよさや美しさ、意図などについて感じ取り、見方や感じ方を広げている。 (f-36)
↓ 写して見つけたわたしの世界（スチレンボードを用いて版画で表現する）					

5 本時の実際 (2 / 5)

(1) ねらい 切った紙から感じたこと、想像したことなどをもとに発想を広げ、形や色の組み合わせに着目して、様々な並べ方を試しながら、表したい主題を考えることができる。 (d-21)

(2) 展開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
10分	<p>① 本時の活動を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 面白い形だな。〇〇に見える。 ・ 形を組み合わせれば、こんなイメージも表すことができるな。 ・ 表したいことをはっきりさせるためには、もっと〇〇を付け加えよう。〇〇は必要ないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように考えていけばよいのか見通しをもつことができるように、考え方の手順を全体で確認する場を設ける。 ①切った紙の中から気に入った形を見つけ、作品の中心にする。 ②切った紙の形や色の組み合わせを試しながら、中心から広がっていくように、切った紙を並べていく。 ③表したいことがはっきりしてきたら、切った紙の形や色の組み合わせを考えながら様々な並べ方を試す。
<p>学習課題 切った紙が〇〇に見えるように並べ方を試しながら、どんな作品をつくるのかを考えよう。</p>		
25分	<p>② 自分が表したいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 切った紙が魚に見えるな。海の中の〇〇な様子を表そう。 ・ 自分の気持ちを表現したい。どんな形や色だったらいいかな。 ・ ぴったりとくる形が見つからない。組み合わせたり、向きを変えたりしてみよう。 ・ 表したいことをもっとはっきりさせるには、他にどんなものがあればいいのだろう。 ・ 表したいことが大体決まった。もっと伝わるように並べ方を変えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の表したいイメージに合った台紙を選択することができるように、様々な色画用紙を用意しておく。 ・ 表したいイメージが伝わるかどうかを確かめたり自分では気付かなかった見方や感じ方を得たりことができるように、表したい主題を見つけた子どもには「仲間との対話」を促す。 ・ 表したいイメージがもてない子どもには、中心になるものを決めるように助言する。中心になるものが決まったら、作品の全体像をつかむことができるように、「どんな〇〇」をキーワードとして示す。 ・ 発想が広がらない子どもには、様々な形や色の表し方を示したヒント紹介したり、似たようなテーマで考えている子どもを紹介したりする。
<p>切った紙から感じたことや想像したことなどをもとに発想を広げ、向き、置く位置、色の組み合わせなどに着目して、様々な並べ方を試しながら、表したい主題を考えている。 (d-21) (発言・表現)</p>		
10分	<p>③ 本時の活動をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 切った紙が魚に見えたので海の中で魚たちが楽しそうに遊ぶ様子を表すことにした。たくさんの海の生き物を単純な形で表そう。 ・ 切った紙の形や色を使って自分の気持ちを表すことにした。気持ちを表す丸っぽい形やとがった形、色の組み合わせや配置などを工夫してみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを明確にすることができるように、どんなことを表すのか、表したいことをどんな形や色の組み合わせで表すことにしたのかをふり返りの視点として示す。 ・ 次時の活動につながるように、切った紙にないが、「もっとこんな表し方が必要」など思い付いたことを書き加えたり、イメージがはっきりしない、イメージを形や色に表すことができずに困っていることなども書き加えるように助言する。